

《資料》

乳房切除術を受ける乳がん患者の心理過程 — 闘病記を分析して —

長谷川 信子, 柴田 綾子, 木村 美智子

椋山女学園大学看護学部

要 旨

【目的】 本研究は乳房切除術患者の心理過程を明らかにすることを目的とした。**【方法】** 乳房切除術を受けた患者自身が著した闘病記3冊から、乳房切除術実施前後において、患者の心理状態が表出されていると思われる言動を、コーンの「危機・障害受容モデル」に基づいて演繹的に分類した。**【結果および考察】** 1. 乳房切除術に関連した心理過程は、コーンの「危機・障害受容モデル」と類似していた。2. 乳房切除術決定前、決定後から手術までの期間においては「悲嘆」の心理に関する言動が多くみられ、治療過程の中でもっとも気分・感情の安定さを欠いていた。3. 乳房切除術後から退院までの期間においては「回復への努力」に関する言動が多く抽出された。また、「回復への努力」に至るには、他者とのかわりが重要な要因となっていた。4. 退院後の期間では多岐にわたる心理段階が抽出され、退院による環境の変化が心理的不安定をもたらすことが示唆された。

キーワード：乳房切除術, 心理過程, 闘病記